

「火の鳥」「鉄腕アトム」など後世に語り継がれる人気作品を生み出した漫画家、手塚治虫（故人）。その手塚作品を題材に、現代社会が抱える多様性について考察するシンポジウム「手塚治虫に現代の多様性をまなぶ」（主催・大阪商業大学、共催・産経新聞社）が令和4年12月17日、大阪商業大学・ユニバーシティホール蒼天（大阪府東大阪市）で開催された。シンポジウムでは冒頭、浪曲師の春野恵子さんが手塚の医療漫画「ブラック・ジャック」から感動作を浪曲公演。続く基調講演は漫画コラムニストの夏目房之介氏が「鉄腕アトム」について触れ、「アトムは孤独なヒーローであった」と指摘した。パネルディスカッションは社会学者らをパネリストに善悪の価値観やジェンダーを巡って意見が交わされた。

手塚ヒーロー「正義」を悩む

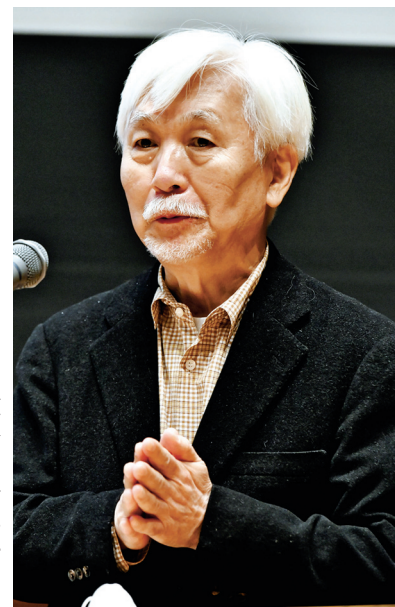
基調講演

漫画批評家・漫画コラムニスト 夏目房之介氏

幼い頃から大人になるまでずっと手塚漫画を読み、作品を通して繰り返し何かを考えてしまふツクのようなものを感じてきた。私は昭和25年生まれで子供時代のヒーローといえば、「鉄腕アトム」がその典型だ。

「月光仮面」のように悪を懲らして正義の味方を体現する人だった。だが、手塚漫画の登場人物だけは違った。自分で正義かどうかを思い悩んでいる。ヒーローはいない。「かわいそ

う」という心理が働き、物語に入っていくやすかった。印象に残っているのはアトムが拳銃で胸のフタを開けられ、動けなくなるシーン。この場面はアトムが生と死の境界をさまようことを意識させた。人間とそうではないもの（ロボット）の境界に立ち、どちらにも行けない。その情けない姿が感受性の強い人に訴えかける。またアトムが原子力燃料をロボットの母さんからお尻に注入される場面は何だかどきどきするようなエロチックな印象があった。初期のアトムは妙に色っぽく少女のようなイメージがある。ここには手塚漫画の人間の観の多様性が表れていると思う。こうした見方は私だけでなく同世代の漫画好きにも強く影響う。



「鉄腕アトムは孤独なヒーローだった」と自説を訴える夏目房之介氏

なつめ・ふさのすけ 昭和25年生まれ。青山学院大卒。漫画コラムニストとして活動し平成11年に手塚治虫文化賞特別賞を受賞。学習院大学大学院教授を務めた。著書に「手塚治虫はどこにいる」など。

主催者挨拶

大阪商業大学理事長・学長 谷岡一郎氏

手塚治虫シンポジウムは2回目となる。手塚は国や民族の紛争、ジェンダーや差別の問題を多くの作品で描き、その意味で先見の明を持っていたと思う。今回は手塚作品の多様性に焦点をあて議論を深めたい。

主催 大阪商業大学
共催 産経新聞社
後援 MBSラジオ、大学コンソーシアム大阪
協賛 大和リース、ハウス食品グループ本社、ミキハウス

<企画制作>産経新聞社メディア営業局

性を超越した登場人物 北波氏

差別はつきり描く 春野氏

体の「違い」自然に 立花氏



©Tezuka Productions

パネルディスカッション

谷岡 SDGs（持続可能な開発目標）やLGBTQ（性的少数者）といった多様な性が話題になっているが、手塚作品はそれらを先取りしていた。まず手塚治虫のジェンダー観をどうとらえるか。

北波 「リボンの騎士」や「ブラック・ジャック」をはじめ、性を超越した登場人物が多く、あらかじめ与えられたキャラクターの性以外のところにある種のエロチシズムが宿っている。手塚治虫自

身、現実の性をあまり気にしていなかったのではないか。立花 手塚作品は露骨な性描写はないのに艶めかしいところも多い。「鉄腕アトム」の主人公の足は少女のロボットを移植されたものでドラマ性を感じる。一方で「ブラック・ジャック」の手術シーン

は非常にリアルだ。このさじ加減がエロチシズム感を高めている。春野 今回私が浪曲にした「ブラック・ジャック」は随分昔に描かれた作品だ。現代社会と比べて表現しにくいところもあるのではと思ったが、そんな危惧は全くなく安

心して演じることができた。谷岡 手塚治虫はジェンダー問題を誰よりも早く作品に残し、人種や民族、国家についても多彩なメッセージを発している。特に差別は手塚自身が一番嫌ったものだろう。この点について意見を伺いた

北波 ブラックジャックの顔の皮膚の一部はベトナム戦争従軍兵を親に持つと思しき孤児から移植された。しかしその命の恩人は革命に身を投じて死んでしまう。手塚作品は個人が国家や人間関係などの争いから生まれるさまざまなバイアスに押し潰されていく姿を描いている。

立花 例えば体の一部を欠損した人物も多く登場するが、それを物語に自然に溶かし込んでいくのが大きな特徴だ。決して特殊なことではなく当たり前のものとして描いており、現代の言葉でいえばまさにダイバーシティ（多様性）につながっていくと思う。春野 「ジョーを訪ねた男」という作品が印象深い。ベトナム戦争の隊長が亡くなった黒人兵の臓器をもらって助かるが、本人は差別主義者で自分が黒人の臓器を持つて生きているのを隠そうとするストーリーだ。こうした作品も手塚ははつきりと描いている。

谷岡 ハッピーエンドではなく、なぜこんな悲惨な終わり方をするのかと思う手塚作品は多い。アトムは自ら太陽に飛び込むし、「ジャングル大帝」の主人公レオは自分の肉を食べられて生涯を終える。

立花 手塚作品を読めば多様な見方ができるようになるし、日本人というバックグラウンドがあればより面白く感じることができらう。それを享受できる私たちは非常に幸せだと思つ。

北波 手塚作品を読むことで私たちはブラック・ジャックやアトムに仮託して自分が見通すことができる。そこが手塚治虫の一番面白いところだと思つ。

谷岡 本日はありがとうございました。



った。手塚作品が浪曲で公演されるのは全国的にも珍しい。

はるの・けいこ 東京大教育学部卒業後、テレビ番組「進め！電波少年」（日本テレビ）で家庭教師役・ケイコ先生としてデビュー。平成15年に二代目春野百合子に弟子入りし浪曲師として活躍する。

ブラック・ジャック作品 浪曲で

春野恵子さんが浪曲で公演したのは「ブラック・ジャック」から「おばあちゃん」というタイトルの物語。守銭奴の母親（おばあちゃん）が、息子夫婦から何かにつけてお金を巻き上げるが、その使い道を調べるために外出した母親の後をつけた息子は、ある医院で意外な事実を知る。そして、その場で脳出血で倒れた母親に駆け寄り、居合わせたブラック・ジャックに母親の救命を依頼するという感動作。抑揚をつけた春野さんの浪曲を、曲師・一風亭初月さんの三味線が盛り上げ、会場の涙を誘



パネルディスカッションでは手塚作品の多様性を巡り活発な議論が交わされた。| いずれも大阪府東大阪市

ゲストコメンテーター



大阪商業大経営学科1年 森あずさ氏



大阪商業大公共学科1年 竹内神晴氏



大阪商業大経営学科2年 石井由梨氏



パネリスト

浪曲師 春野恵子氏



コーディネーター

大阪商業大学理事長・学長 谷岡一郎氏



パネリスト

和大学社会学部准教授 立花晃氏



パネリスト

メディア論・アニメ史研究家 北波英幸氏